

1 木花フィールド（農場）

畑作係

安藤 定美

平成25年度の各畑作物の栽培暦を第1表に示し、栽培面積と収穫量を第2表に示した。また、各作物の施肥概要を第3表に、防除概要を第4表に、作付け圃場図を第5表にそれぞれ示した。

ばれいしょは、25年1月10日から種芋の浴光育芽を行い、種芋切りを1月18日、24日に行った。1月25日に学生実習で植え付けを行った、B班の実習は雨でながれ2月3日に植え付けた。芽だし作業を2月26日から3月18日まで行い、5月1日、15日に実習で収穫を行い、2日、16日、17日にそれぞれ調製をして出荷を行った。

かんしょは、平成25年1月9日に種芋の伏せ込みを行い、暖房機を設置した。4月8日から7月1日まで植え付けを行い例年より2週間ぐらい早く植え付けを始めることができた。収穫は、7月から8月の猛暑の影響で収穫できた圃場が少なく、開放と種芋の確保が辛うじてできた。

ズッキーニは、2月27日に播種を行い、定植は、3月26日、28日、4月1日に行った。交配を4月23日から始め、収穫を4月30日から6月6日まで行った。

さといもは、4月25日に植え付けを行い、追肥は、猛暑で生育が遅れ、7月12日と8月27日と例年に比べ遅い時期になった。その後順調に生育し、11月6日7日に収穫を行った。

第1表 畑作の作物別栽培暦

作物	品種	圃場	面積 (a)	4			5			6			7			8			9			10			11			12			1			2			3		
				上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下			
ばれいしょ	メイクイン	④-1	10				□	□																															
ばれいしょ※	メイクイン	⑧-3.4	10																									☆	---	○	---	---	---						
かんしょ	宮崎紅	⑨-1234	40	○	○	○	○	○	○	○	○	○																											
		④-6.7	10							○																													
		⑧-3.4	10							○																													
かんしょ※	宮崎紅	eハウス	2	□	---	---	---	---	---	---	---	---	□																		△	---	---	---	---	---			
ズッキーニ	ダイナー	⑦-1	3.5	○	---	□	---	---	---	□																								●	●	○			
さといも	ハっ頭	④-8.9	12				○	---	---	---	---	---																											

※：平成26年度 凡例 ☆浴光育芽 △伏せ込み ●播種 ○植え付け □収穫

第2表 栽培面積と収穫量※

作物名	栽培面積 (a)	収穫量 (kg)	kg/10a
ばれいしょ	10	1,381	1,381
かんしょ	60	255	42
ズッキーニ	3.5	283	800
さといも	12	484	403
合計	76		

※収穫量は販売数量を示す

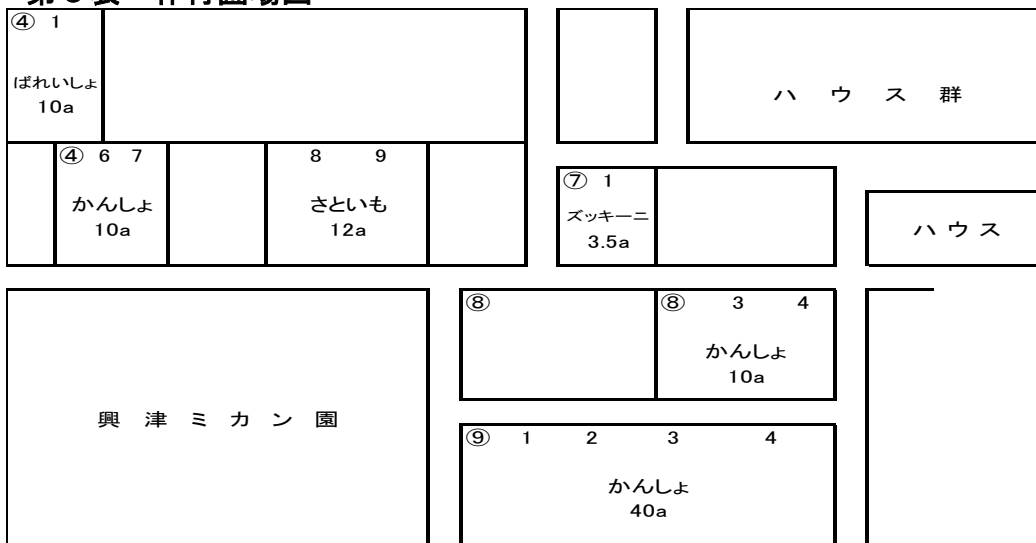
第3表 施肥概要

作物名	元肥(kg/10a)			追肥(kg/10a)			全施肥量(kg/10a)			備考		
	N	P	K	施肥日	N	P	K	施肥日	N	P	K	元肥
ばれいしょ	12.0	26.2	10.0	1月15日					12.0	26.2	10.0	磷硝安加里S260 100kg 過磷酸石灰60kg 硫加磷安820 60kg 溶成磷肥 30kg
	4.8	13.2	12.0	4月3日				4.8	13.2	12.0		
				4月13日								
				5月7日								
				5月23日								
かんしょ				6月16日								
ズッキーニ	14.0	22.0	24.0	3月12日					14.0	22.0	24.0	IB化成S1号140kg 溶成磷肥40kg 硫酸加里20kg
さといも	6.2	11.1	5.3	4月15日	22.2	12.4	21.7	7月12日	33.2	23.5	27.0	黒潮有機 183kg 黒潮有機 413kg
								8月27日				

第4表 病虫害防除暦

年月	ばれいしょ	かんしょ	ズッキーニ	さといも
2013年	エンセダン乳剤	ネマトリンエース粒剤 アクタラ粒剤	粘着くん液剤 ベストガード粒剤	ネマトリンエース粒剤
4月				
5月		ネマトリンエース粒剤 アクタラ粒剤 粘着くん液剤 スタークル顆粒水溶剤	粘着くん液剤	
6月		ネマトリンエース粒剤 アクタラ粒剤 バスタ液剤		
7月		バスタ液剤		フェディンSL
8月				アディオン乳剤 プレオフロアブル
9月		エンセダン乳剤 バスタ液剤		
2014年	ネマトリンエース粒剤	ネマトリンエース粒剤		
1月	アクタラ粒剤			
3月			ネマトリンエース粒剤 ベストガード粒剤	

第5表 作付圃場図



露地野菜係

第1表 作物別栽培歴

満富 和満

作物	品種	面積 (a)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
			上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下	上中下
スイート コーン (春作)	ゴールドラッシュ	10				■								
		5	●	—		■								
		5	●	—		■								
		8	●	—		■								
スイート コーン (秋作)	ゴールドラッシュ88	2					●	—		×				
		2					●	—		×				
スイートコーン (※)	ゴールドラッシュ	5												●
		5												●
ブロッコリー	ハイツSP						●	—		×				
	グリーンビューティ	10					●	—		×				
	ハートランド	10						●	▲	—		■	—	■
	ハートランド	10						●	▲	—		■	—	■
キャベツ	ジャンヌ						●	▲	—		■	—	■	
	レンヌ	10					●	▲	—		■	—	■	
	彩ひかり							●	▲	—		■	—	■
	彩音	10						●	▲	—		■	—	■
黄ごころ65	1						●	▲	—		■	—	■	
ハクサイ	黄ごころ75	4.5						●	▲	—		■	—	■
	黄ごころ90	4.5						●	▲	—		■	—	■
ニンジン	向陽二号	3					●●	—		■	—	■		
ダイコン	耐病総太り	2					●●	—		■	—	■		
カブ	スワン	2					●●	—		■	—	■		
レタス	レッドファイヤー (赤)							●	▲	—		■	—	■
	ダンシング (緑)	1						●	▲	—		■	—	■

● : 播種 ▲ 定植 ■ 収穫 × 中止

第2表 作物別栽培歴

作物名	栽培面積(a)	収穫量 (kg)	kg/10a
スイートコーン	32	502	156.875
ブロッコリー	20	6634.5	3317.25
キャベツ	20	1178	589
ハクサイ	10	4559.4	4559.4
ニンジン	3	369	1230
ダイコン	2	190	950
カブ	2	89	445
レタス	1	49	490

第3表 施肥概要

作物名	元肥 (kg/10a)			追肥 (kg/10a)			全施肥量 (kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
スイートコーン	30.1	36.9	26.9	5.6	0	6.8	35.7	36.9	33.7
ブロッコリー	19.8	23.2	22.6	8.4	1.2	10.2	28.2	24.4	32.8
キャベツ	19.8	23.2	15.8	8.4	1.2	10.2	28.2	24.4	26
ハクサイ	19.8	23.2	15.8	5.6	0.8	6.8	25.4	24	22.6
ニンジン	6.2	4	6.3	4.2	0.6	5.1	10.4	4.6	11.4
ダイコン	3.4	3.6	6.3	7	1	8.5	10.4	4.6	14.8
カブ	3.4	3.6	2.9	4.2	0.6	5.1	7.6	4.2	8
レタス	3.4	3.6	2.9	0	0	0	3.4	3.6	2.9

第4表 病害虫防除歴

作物名	散布日	使用薬剤	対象病害虫
スイートコーン	3月7日	石灰窒素	雑草防除
	3月21日	石灰窒素	雑草防除
	4月3日	石灰窒素	雑草防除
	3月22日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	4月4日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	4月10日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	4月16日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	4月18日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	5月21日	ダイアジノン粒剤	アワノメイガ
	5月29日	ダイアジノン粒剤	アワノメイガ
	5月30日	ダイアジノン粒剤	アワノメイガ
	6月3日	ダイアジノン粒剤	アワノメイガ
	6月7日	アディオン乳剤	アワノメイガ
	6月14日	アディオン乳剤	アワノメイガ
	6月7日	スミチオン乳剤	アワノメイガ
	6月4日	リゾレックス水和剤	紋枯れ病
	6月4日	アプローチBI	展着剤
6月7日	アプローチBI	展着剤	
スイートコーン (秋作)	8月6日	石灰窒素	雑草防除
	8月28日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	9月5日	ダイアジノン粒剤	ネキリムシ類
	10月27日	カスケード乳剤	アワノメイガ
	11月6日	カスケード乳剤	アワノメイガ
	11月6日	プレバソンフロアブル5	アワノメイガ
ブロッコリー	8月27日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	9月28日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	9月20日	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ
	10月11日	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ
	10月3日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ
	10月16日	プレバソンフロアブル5	アブラムシ類・ヨトウムシ
	11月9日	アディオン乳剤	アオムシ
	1月2日	フェニックス顆粒水和剤	ヨトウムシ・ハスモンヨトウ

キャベツ	8月30日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	9月28日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	9月20日	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ
	10月12日	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ
	9月11日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ
	10月10日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ
	11月9日	アディオン乳剤	アオムシ
	11月9日	フェニックス顆粒水和剤	ヨトウムシ・ハスモンヨトウ
ハクサイ	1月2日	フェニックス顆粒水和剤	ヨトウムシ・ハスモンヨトウ
	9月28日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	9月20日	スピノエース顆粒水和剤	アオムシ
	10月3日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ
	11月26日	うららDF	アブラムシ類
	11月9日	アディオン乳剤	アオムシ
ニンジン	12月28日	アディオン乳剤	アオムシ
	1月2日	フェニックス顆粒水和剤	ヨトウムシ・ハスモンヨトウ
	8月9日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	8月19日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
ダイコン	10月11日	スピノエース顆粒水和剤	ヨトウムシ
	9月11日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	10月11日	スピノエース顆粒水和剤	ヨトウムシ
カブ	11月5日	プレバソンフロアブル5	ヨトウムシ
	10月12日	スピノエース顆粒水和剤	ヨトウムシ
レタス	11月6日	プレバソンフロアブル5	ヨトウムシ
	9月28日	オルトラン水和剤	ヨトウムシ・オオタバコガ
	10月3日	ジュリボフロアブル	アブラムシ類・ヨトウムシ
	10月12日	アフーム乳剤	ハモグリバエ・ハスモンヨトウ

平成25年度 春作

スイートコーン				
④-1	④-2	④-3	④-4	

	ハウス群		
			ハウス

興津ミカン園

--

平成25年度 秋作

キャベツ	ブロッコリー	ハクサイ	キャベツ
④-1	④-2	④-3	④-4

	ハウス群		
			ハウス

興津ミカン園

ニンジン	ダイコン	カブ	スイートコーン

--

水田係

早期水稲（コシヒカリ）

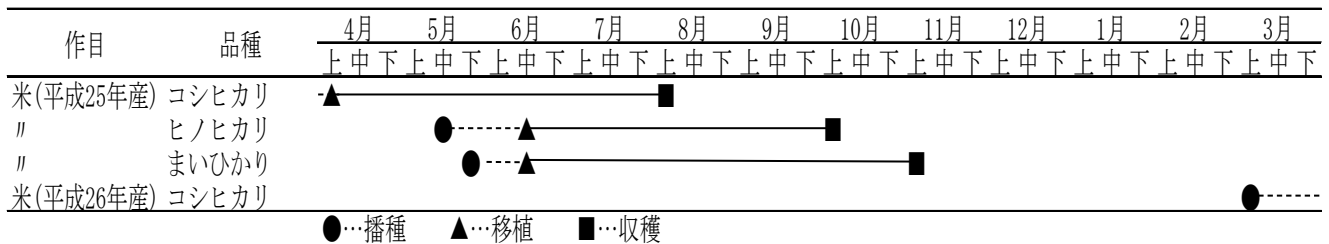
黒木 志郎

平成25年産の早期水稲の栽培は、西水田6圃場174.9 aで行った。本年は台風の影響もなく、加えて前年度に行った水田の均平化工事及び、スクミリンゴガイの防除も効果があったとみられ、10 aあたり玄米収量が昨年比27.7増の412.9 kg/10aであった。

普通期水稲（ヒノヒカリ，まいひかり）

普通期水稲の栽培は東水田で行った。本年度から種籾の消毒方法を薬品消毒から温湯消毒に切り替えて行ったが、ヒノヒカリの浸種時の水温調整が上手くいかず、播種時には2 cmほど出芽した状態であったため上手く播種が出来ず薄蒔き状態となり、例年ほどの苗が仕立てられず結果、前年度より栽培面積42.3 a減の10 aあたり玄米収量昨年比-170.6減の241.8 a/10aであった。まいひかりは、ヒノヒカリの栽培に至らなかった圃場をまいひかりの栽培に当て、前年度より栽培面積18.1 a増で10 aあたり玄米収量昨年比92.3増の381.8 a/10aであった。

第1表 栽培歴



第2表 栽培面積および玄米収量

作目	品種	面積(a)	玄米収量(kg)	反当収量(kg/10a)
米(平成25年産)	コシヒカリ	174.9	7,222	412.9
〃	ヒノヒカリ	99.9	2,479	248.1
〃	まいひかり	153.1	5,845	381.8

第3表 病虫害防除歴

品種	散布日	散布剤	対象病虫害
コシヒカリ (平成25年産)	4月8日	スクミノン	スクミリンゴガイ
	4月18日	サラブレッドR Xフロアブル	水田雑草
	6月17日	コラトップジャンボ	いもち病
	7月5日	スタークル豆つぶ	カメムシ類・ウンカ・ツマグロヨコバイ
	7月19日	ビームエイトスタークルゾル	カメムシ・いもち病
ヒノヒカリ (平成25年産)	5月16日	温湯消毒	ばか苗病, いもち病, 立枯れ病
	5月22日	育苗: ダコニール1000	立枯れ病
	5月30日	育苗: タチガレン液剤	立枯れ病
	6月4日	石灰窒素ペルカ	スクミリンゴガイ
	6月17日	スクミノン	スクミリンゴガイ
	6月22日	ミスターホームランDLジャンボ	水田雑草
	8月22日	スタークル豆つぶ	カメムシ類・ウンカ・ツマグロヨコバイ
	8月22日	イモチミン粒剤	いもち病・紋枯病
	9月25日	ビームエイトスタークルゾル	カメムシ・いもち病
まいひかり (平成25年産)	5月24日	温湯消毒	ばか苗病, いもち病, 立枯れ病
	5月29日	育苗: ダコニール1000	立枯れ病
	6月5日	育苗: タチガレン液剤	立枯れ病
	6月4日	石灰窒素ペルカ	スクミリンゴガイ
	6月22日	スクミノン	スクミリンゴガイ
	7月2日	ミスターホームランDLジャンボ	水田雑草
	8月22日	スタークル豆つぶ	カメムシ類・ウンカ・ツマグロヨコバイ
	8月22日	オリブライト1kg粒剤	いもち病・紋枯病
	9月25日	ビームエイトスタークルゾル	カメムシ・いもち病
コシヒカリ (平成26年産)	3月4日	ダコニール1000	立枯れ病
	3月11日	タチガレエース	立枯れ病
	3月25日	石灰窒素ペルカ	スクミリンゴガイ

第4表 施肥量

圃場名	品種	基肥施肥量 (kg/10a)		
		N	P	K
西1号水田	コシヒカリ	9.3	9.5	8.8
西2号水田	コシヒカリ	9.4	9.6	8.9
西3号水田	コシヒカリ	9.4	9.6	8.9
西4号水田	コシヒカリ	9.4	9.6	8.9
西5号水田	コシヒカリ	9.2	9.4	8.7
西6号水田	コシヒカリ	9.4	9.6	8.9
東1号水田	ヒノヒカリ	7.7	10.2	8.0
東2号水田	ヒノヒカリ	8.2	10.8	8.5
東3号水田	まいひかり	9.5	9.7	9.0
東7号水田	まいひかり	9.3	10.3	9.9
東8号水田	まいひかり	9.4	10.6	10.0
東9号水田	ヒノヒカリ	9.7	9.9	9.2
東10号水田	ヒノヒカリ	9.6	9.8	9.1
東11号水田	まいひかり	9.9	10.1	9.4
東12号水田	まいひかり	9.7	9.9	9.2
東13号水田	まいひかり	9.5	9.7	9.0

果樹係

甲斐 祐介

平成25年度は、以下の常緑果樹・落葉果樹を栽培し、各実習を行った。また10月23日に“JGAP/青果物2010”の更新審査を受審した。審査において収穫調製作業を温州みかん‘興津早生’で計画していたが、雨天のため収穫調製作業は行えなかった。JGAP/青果物2010の認証取得を機に、今後は科学的な視点から、安全・安心な農作物の生産と労働環境にも重きを置き、「農業技術検定」及び「フィールド実践実習」を柱とした生産のみに偏らない栽培体型・作業体型を作っていく必要があると考える。

圃場周りにはイノシシ・サルによる獣害対策として電機柵や防獣ネットを使用し、被害を可能な限り抑えている。また平成26年3月10日に木花フィールドにて行った鳥獣害対策セミナーにおいて、農作物の被害や動物の足跡などの痕跡を地図上に示していくことで、動物の習性や対策を練ること等に繋がることが新たな発見となった。今後も継続してサル・イノシシ・カラスの鳥獣害対策を十分に取る必要がある。

カンキツ類全樹におけるゴマダラカミキリムシ防除に、微生物殺虫剤を使用している。また樹種によってゴマダラカミキリムシの飛来数と産卵箇所の違いが見られるため、今後はゴマダラカミキリムシの生態調査を検討していきたい。

【温州みかん】 11号圃場・13号圃場

11号圃場では‘興津早生’を栽培している。4月8日に2年生苗5本を補植。幼木72本は5月8日から5月16日にかけて全摘果を行い、若木は7月9日に摘果を行った。夏期には11号圃場南西の範囲にそうか病の害が多く見られた。防除にスピードスプレーヤーでの散布を行っているが、今後は散布ムラの無いようハンドノズルでの散布を行っていく。若木の収穫はフィールドセンター開放事業において「収穫体験」という形で行い概算での収量は80kgであった。害虫はアカマルカイガラムシが多く、枝はもちろん葉にまで広がっている。実習「果樹の耕種的防除」において、アカマルカイガラムシ除去にプラスチックの楊枝を使用してみた結果、除去作業は容易にはいかなかったが、実習には十分使える資材と思われる。冬期にハーベストオイルの散布を行い、密度を減らしている。13号圃場では‘岩崎早生’を栽培している。平成24年度から改植を行っており、さらに4月8日に20本の2年生苗木の植付けを行った。全樹幼木のため、4月22日にすべての樹において全摘蕾を行った。‘興津早生’‘岩崎早生’とも幼木においては、平成27年度までの3年間は確実に摘蕾・摘果を実施し、樹の維持に努めたい。

【カンキツ類】 12号圃場

晩生柑類を栽培している。‘日向夏’は平成25年4月9日に若木の収穫を行った。収量は521.9kgあり、日向夏は「大学は美味しいフェア」出品のソフトクリームの原料用として、業者に搾汁を依頼した。490kgの果実から160kgの果汁が取れ、重量換算で搾汁率32.7%となった。また、学科の授業において交配実験に使用している。平成25年7月23日から8月1日にかけて袋かけを行っているが、袋をかけた果実は冬期にフジコナカイガラムシの越冬場所となり、ハダニの吸汁痕も大部分で見られた。‘八朔’・‘紅八朔’は平成26年1月13日から平成26年1月14日にかけて収穫を行った。病虫害ではアカマルカイガラムシ・ヤノネカイガラムシが見られた。

‘はるか’は2月中旬にサルの食害に遭い、4~5割程収量を落としている。

‘スイートスプリング’は全体の結果量が少なく、隔年結果が表れている。糖度16Brix%となった。病虫害ではアカマルカイガラムシが見られた。

【柿】15号圃場

渋柿（‘平核無’ ‘刀根早生’）の脱渋には固形アルコールを利用して行っている。保冷庫を利用し15℃で脱渋を行ったところ、10日目で食味に影響の出ないところまで、脱渋することが出来た。基準が20℃で5日～7日なので、積算温度で考えると150℃が脱渋処理時間の目安だと考えられる。

剪定を平成25年12月29日から平成26年1月22日にかけて行った。樹の大きなものは縮伐を行った。病虫害ではフジコナカイガラムシ・カキノヘタムシガが見られた。刀根早生の一部でロウムシも20個体程確認できた。

あ鳥害対策に通路に樹上頂部と同じ高さにテグスを張ることで、十分に防ぐことが出来た。収穫時期の果実の着色進行具合が遅いようになり、土壌中に窒素肥料分が残っていることが示唆される。

第1表 作物別栽培歴

作目及び作型	品 種	圃場	植栽面積(a)	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
温州みかん	興津早生	11号圃	50	▲	□▽	☆	☆○				□				□▽
晩生柑橘類	ハッサク55号	12号圃	13.5		□○		☆○				□		■		□▽
	農間紅ハッサク				□○		☆○				□		■		□▽
	日向夏		10	■▽	□○		☆□☆○□			□	□				□■
	西内小夏		10	■	□○		☆□☆○□			□	□				□
	スイートスプリング		13.5		□○	☆	○☆				□■		▽		□▽
	はるか		2.1		□○		☆○			□	□			■	□
	せとか		4.5		□○		☆○			□	□				□
	ネーブルオレンジ		(1樹)		□○		○				□			■	□
	レモン		(1樹)		□○		○			□	□			■	□
	ユズ		(1樹)		□○		○				□				□
温州みかん	岩崎早生	13号圃	21	▲☆	□			○			□				□▽
柿	西村早生	15号圃	0.6		□	□○	○☆	○○				□		▽	
	刀根早生		7		□	□○	○☆	○○■	■			□		▽	
	平核無		9.6		□	□○	○☆	○○		■		□▽		▽	
	富有		5.7		□	□○	○☆	○○			■	□		▽	
	次郎		1.2		□	□○	○☆	○○				□		▽	
	大秋		3.8		□	□○	○☆	○○				□		▽	

▲ 定植 ■ 収穫 □ 施肥 ▽ 剪定 ○ 薬散 ☆ 摘果

第2表 栽培面積・収穫量

作目	収穫量(kg)	(kg/10a)
興津早生	100.0	(70.0)
日向夏(普通種)	568.7	(568.7)
日向夏(西内小夏)	521.9	(521.9)
スイートスプリング	668.9	(788.7)
ハッサク55号	259.3	(1069.2)
農間紅ハッサク	618.7	(2550.9)
せとか	0.0	—
はるか	71.9	(158.4)
ネーブルオレンジ	10.7(1樹)	—
刀根早生	695.9	(496.0)
平核無	498.0	(479.5)
富有	100.0	(187.5)

第3表 施肥概要

作目	kg/10a		
	N	P ₂ O ₅	K ₂ O
興津早生	7.12	1.7	1.4
はっさく	24.9	9.3	4.7
日向夏	30.0	11.3	6.1
スイートスプリング	22.3	.84	4.2
せとか	1.1	0.5	0.5
はるか	9.7	7.7	6.6
ネーブルオレンジ	3.0	2.4	2.1
岩崎早生	2.5	1.3	1.3
柿	20.4	25.2	10.7

第4表 病害虫防除暦

圃場	作目	散布日	使用農薬	対象病害虫		
11号圃	興津早生	5月3日	バスタ液剤	一年生雑草 多年生雑草		
		5月30日	ICホルド [®] -66D	かいよう病 黒点病 そうか病		
		6月6日	バイオリサカミキリスリム	カミキリムシ類		
		6月7日	バイオリサカミキリスリム	カミキリムシ類		
		7月6日	スタークル顆粒水溶剤 ペンコセブ [®]	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		7月18日	パロックフロアブル ペンコセブ [®]	ミカンハダニ 黒点病 そうか病		
		8月1日	バイオリサカミキリスリム	カミキリムシ類		
		8月12日	バリュースターフロアブル ペンコセブ [®]	ミカンハダニ 黒点病 そうか病		
		8月29日	スタークル顆粒水溶剤 テランフロアブル	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		1月21日	ハーベストオイル	カイガラムシ類		
		3月25日	ハーベストオイル テランフロアブル	カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		3月28日	バスタ液剤	一年生雑草 多年生雑草		
		12号圃	晩生柑橘類 (日向夏のみ)	5月30日	ICホルド [®] -66D	かいよう病 黒点病 そうか病
6月6日	バイオリサカミキリスリム			カミキリムシ類		
6月20日	バイオリサカミキリスリム			カミキリムシ類		
7月6日	スタークル顆粒水溶剤 ペンコセブ [®]			アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病		
7月18日	パロックフロアブル ペンコセブ [®]			ミカンハダニ 黒点病		
7月25日	コロマイト			ハダニ類		
8月1日	バイオリサカミキリスリム			カミキリムシ類		
8月12日	バリュースターフロアブル ペンコセブ [®]			ミカンハダニ 黒点病		
8月29日	スタークル顆粒水溶剤 テランフロアブル			アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
12月19日	マテックEW			後期落下防止		
3月28日	バスタ液剤			一年生雑草 多年生雑草		
13号圃	岩崎早生			5月30日	ICホルド [®] -66D	かいよう病 黒点病 そうか病
				6月7日	バイオリサカミキリスリム	カミキリムシ類
		7月6日	スタークル顆粒水溶剤 ペンコセブ [®]	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		7月18日	パロックフロアブル ペンコセブ [®]	ミカンハダニ 黒点病 そうか病		
		8月1日	バイオリサカミキリスリム	カミキリムシ類		
		8月12日	バリュースターフロアブル ペンコセブ [®]	ミカンハダニ 黒点病 そうか病		
		8月29日	スタークル顆粒水溶剤 テランフロアブル	アブラムシ類 カメムシ類 カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		1月21日	ハーベストオイル	カイガラムシ類		
		3月25日	ハーベストオイル テランフロアブル	カイガラムシ類 黒点病 そうか病		
		3月31日	バスタ液剤	一年生雑草 多年生雑草		
		15号圃	柿	5月3日	バスタ液剤	一年生雑草 多年生雑草
				6月17日	オンリーワンフロアブル スプラサイド [®]	うどんこ病 炭疽病 落葉病 カイガラムシ類
				7月5日	ストロビーDF	うどんこ病 炭疽病 落葉病
8月22日	ダントツ ピオネクト			カメムシ類 コナカイガラムシ類 うどんこ病 炭疽病 落葉病		
9月9日	アクタラ顆粒水溶剤 スコア顆粒水和剤			カメムシ類 コナカイガラムシ類 うどんこ病 炭疽病 落葉病		
3月31日	バスタ液剤			一年生雑草 多年生雑草		

第5表 フィールド実践実習

月 日	実習内容	時間 h	人数 名
4月15日	カラタチ播種	3.5	1
4月16日	下草刈り	2.5	2
5月3日	柿施肥 除草剤散布	3	2
5月16日	興津早生摘果 日向夏剪定	3.5	2
5月24日	下草刈り	3.5	3
6月13日	草刈り	3.5	1
6月20日	カミキリムシ防除 バイオリサ設置	3	2
7月30日	日向夏摘果・袋掛け	3	2
10月7日	柿収穫	6	4
10月15日	柿調製	1.5	3
11月5日	柿調製	4	3
11月21日	カンキツ施肥	3	2
11月30日	カラタチ採種	3	1
12月2日	下草刈り	3	2
12月8日	スイートスプリング選果	1.5	1
2月4日	スイートスプリング剪定	3.5	2
計		51	33

施設野菜係

福重 博貴

平成25年度の各作物の栽培暦を第1表に示し、栽培面積と収穫量を第2表に示した。また、各作物の施肥概要を第3表に、病虫害防除暦を第4表に示した。

【トマト①】

” Cハウス（面積：200㎡）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は「桃太郎」を用いて栽培を行った。また同ハウスの1/3の面積で、10品種程のエアルームトマトを試験的に栽培した。播種は7月19日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、9月2日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。9月7日から10月7日にかけて黄化葉巻病と思われる株が計16株確認されたので、発見次第直ちに罹病株の除去・処分を行った。その後は確認されなかったため、おそらく育苗後期から定植直後に感染したと思われる。また、栽培期間を通じて常に樹勢が強めで推移し、障害果の発生が多くみられたので、来年度は品種の選択と、施肥・灌水量等も見直す必要がある。”

【ミニトマト】

“ Dハウス（面積：200㎡）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は「CF千果」を用いて栽培を行った。播種は8月23日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、9月27日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：50cm）。宮崎大学フィールドセンター開放事業の『収穫体験プログラム』を目的として栽培を行ったため、収穫しやすいように県の栽培指針よりも疎植とし、収穫も6段目果実までとした。比較的病虫害の発生が少なく、可販果率は87.2%と高めに保つことができた。”

【きゅうり】

” Aハウス（面積：200㎡）にて作型はハウス抑制栽培で、品種は「グリーンラックス」、台木に「ゆうゆう一輝（黒）」を用いて栽培を行った。また、独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構生物系特定産業技術研究支援センターで試作されたエアアシスト式静電防除ロボットの防除効果試験を同ハウスにて行った。播種は9月12日に行い、育苗には12cm鉢を用いた。土壌診断の結果を参考に施肥設計を行い、10月3日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：80cm）。害虫の被害はほとんどなかったが、育苗時からうどんこ病の発生が確認され、また11月下旬ごろからはべと病の発生も見られたので、育苗時から予防的に殺菌剤を散布する必要がある。全体的に病害が発生したことと、試験区として農薬無散布区も同ハウス内に設けていたこともあり、例年よりも低い収量となった。”

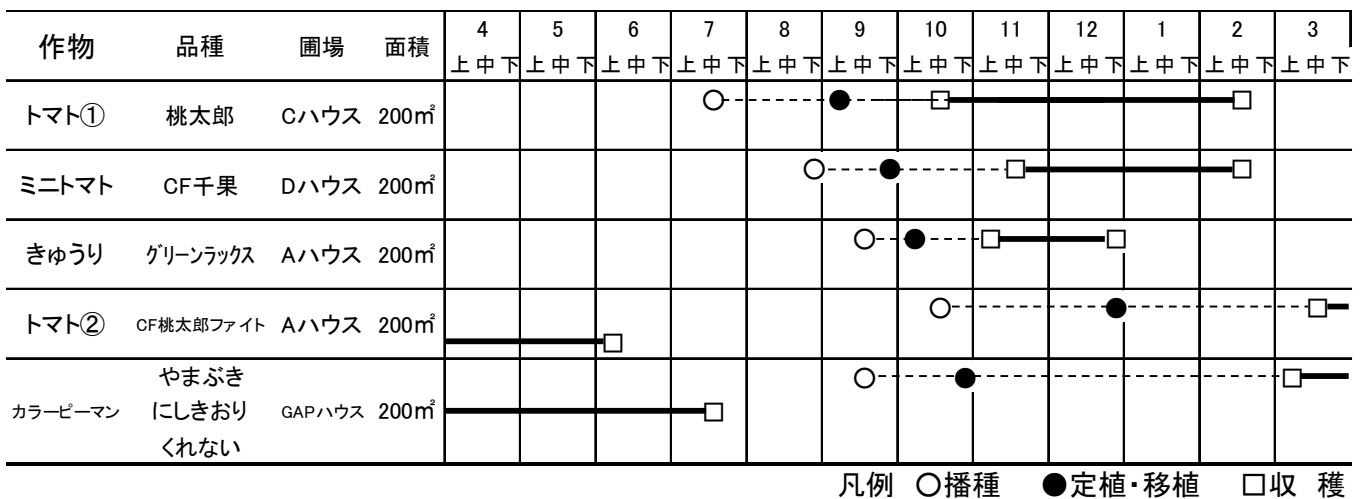
【トマト②】

” きゅうり栽培後、Aハウス（面積：200㎡）にて作型はハウス半促成栽培で、品種は「CF桃太郎ファイト」を用いて栽培を行った。播種は10月11日に行い、育苗には15cm鉢を用いた。土壤診断の結果を参考に施肥設計を行い、12月27日に定植を行った（畝幅：190cm・条間60cm・株間：40cm）。きゅうり栽培で行った試験の影響で後作の準備が遅れたためにトマトの定植が遅れ、初期生育の樹勢がかなり弱めで推移し、その回復にも時間を要した。樹勢回復後は適度な樹勢を保ちながら栽培でき、品質・秀品率ともに高かった。4月下旬ごろから気温の上昇に伴い、急激に樹勢が強くなったことで障害果の発生も増え、秀品率が低下した。また低密度ではあるが灰色かび病の発生も継続的に確認されたので、来年度は栽培時期の検討とより徹底した防除を心掛けたい。”

【カラーピーマン】

” GAPハウス（面積：200㎡）にて作型はハウス促成栽培で、品種は「やまぶき」「にしきおり」「くれない」の三品種を用いて栽培を行った。※GAPハウスは（西）と（東）で二棟に分かれた構造をしており、それぞれの面積は100㎡である。GAPハウスでの栽培管理・収穫調制作業は主に「農場実習Ⅰ・Ⅱ」の授業で行い、学生に対するGAP教育を目的としており、服装から作業手順などGAPに即した内容で実習を行った。栽培には「株式会社 福岡セルトップ」から購入した接ぎ木苗を利用し、土壤診断の結果を参考に施肥設計を行い、10月25日に定植を行った（畝幅：190cm・株間：50cm）。4本仕立て栽培とし、第5花の果実から収穫を開始した。病虫害防除に関してはGAPハウス（西）は慣行で行い、（東）は天敵（スワルスキーカブリダニ）と選択性農薬を利用して行った。慣行区、天敵区ともに害虫密度は低く抑えることができたが、うどんこ病の発生が多く見られた。またラスセティングなどの障害果も多く見られたので、ハウス内の温度や湿度、光強度などの環境要因を制御し、改善していく必要がある。”

第1表 作物別栽培暦



第2表 栽培面積と収穫量

作物名	圃場	栽培面積 (m ²)	総収穫量		可販果収量 (kg)	可販果率 (%)
			(kg)	(kg/10a)		
トマト①	Cハウス	200	855.7	4278.5	562.8	65.8
ミニトマト	Dハウス	200	417.4	2087.0	364.0	87.2
きゅうり	Aハウス	200	385.9	1929.5	361.3	93.6
トマト②	Aハウス	200	1498.0	7490.0	1109.5	74.1
カラーピーマン	GAPハウス	200	765.4	3827.0	666.0	87.0

第3表 施肥概要

作物名	元肥(kg/10a)			追肥(kg/10a)			全施肥量(kg/10a)		
	N	P	K	N	P	K	N	P	K
トマト①	10.6	4.0	2.0	0.5	0.2	0.3	11.1	4.2	2.3
ミニトマト	10.6	4.0	2.0	0.5	0.2	0.3	11.1	4.2	2.3
きゅうり	10.6	4.0	2.0	9.0	2.7	4.5	19.6	6.7	6.5
トマト②	10.6	4.0	2.0	3.6	1.7	2.3	14.2	5.7	4.3
カラーピーマン	31.1	16.3	2.0	29.0	8.7	14.5	60.1	25.0	16.5

第4表 病害虫防除暦

作物名	散布日	使用薬剤	対象病害虫
トマト①	8月9日	ウララDF	コナジラミ類
	8月9日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	8月17日	アプロードエースフロアブル	コナジラミ類
	8月17日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	8月26日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月10日	チェス顆粒水和剤	コナジラミ類
	9月10日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	9月17日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	9月17日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	9月24日	アフーム乳剤	オオタバコガ
	9月24日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月1日	アプロードエースフロアブル	コナジラミ類
	10月1日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月8日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	10月8日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月18日	アフーム乳剤	オオタバコガ
	10月18日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月28日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
	10月28日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	11月8日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	11月8日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	11月27日	サンマイトフロアブル	コナジラミ類
	11月27日	アフェットフロアブル	葉かび病
12月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	
1月11日	サンマイトフロアブル	コナジラミ類	

ミニトマト	9月10日	チェス顆粒水和剤	コナジラミ類
	9月10日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	9月17日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	9月17日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	9月24日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月27日	カリグリーン水溶剤	灰色かび病,うどんこ病
	9月27日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月1日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	10月1日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月8日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	10月8日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月18日	アフーム乳剤	オオタバコガ
	10月18日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	10月28日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
	10月28日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	11月8日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	11月8日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
11月14日	ウララDF	コナジラミ類	
12月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	
きゅうり	9月24日	ベストガード粒剤	コナジラミ類
	9月27日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
	9月27日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	10月1日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	10月1日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	10月8日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	10月8日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	10月16日	サンヨール	うどんこ病
	10月16日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	10月28日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
	10月28日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	11月2日	ルビゲン水和剤	うどんこ病
	11月2日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	11月9日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	11月9日	パンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病
	11月14日	サンヨール	うどんこ病
	11月14日	ライメイフロアブル	べと病
	11月28日	ハチハチ乳剤	コナジラミ類
	11月28日	アフエットフロアブル	灰色かび病,うどんこ病
	12月5日	サンマイトフロアブル	コナジラミ類,うどんこ病
12月5日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病	
12月12日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類	
12月12日	パンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病	
12月19日	ルビゲン水和剤	うどんこ病	

トマト②

	11月20日	ウララDF	コナジラミ類
	11月20日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	12月4日	マッチ乳剤	コナジラミ類
	12月4日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	12月30日	ガードホープ液剤	ネコブセンチュウ
	1月4日	カスミンボルドー	葉かび病
	1月4日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	1月11日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類
	1月11日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	1月21日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	2月12日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	2月12日	カリグリーン水溶剤	灰色かび病,葉かび病
	2月20日	フルビカフロアブル	灰色かび病
	2月20日	ボトキラー水和剤	灰色かび病,うどんこ病
	2月27日	カリグリーン水溶剤	灰色かび病,葉かび病
	2月27日	ボトピカ水和剤	灰色かび病
	3月6日	アフエットフロアブル	灰色かび病,葉かび病
	3月6日	ボトピカ水和剤	灰色かび病
	3月22日	カリグリーン水溶剤	灰色かび病,葉かび病
	3月22日	ボトピカ水和剤	灰色かび病
	4月4日	アフエットフロアブル	灰色かび病,葉かび病
	4月4日	ボトピカ水和剤	灰色かび病
	4月11日	チェス顆粒水和剤	コナジラミ類
	4月22日	ハチハチ乳剤	トマトサビダニ
	5月2日	コロマイト乳剤	トマトサビダニ
	5月22日	チェス顆粒水和剤	コナジラミ類
カラーピーマン	10月11日	ネマトリンエース粒剤	ネコブセンチュウ
	10月25日	オリゼメート液剤	うどんこ病
	11月8日	アフアーム乳剤	オオタバコガ
	11月8日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	11月20日	サンヨール	アブラムシ類,うどんこ病
	11月20日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	12月4日	マッチ乳剤	オオタバコガ
	12月4日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	12月13日	ベストガード水溶剤	コナジラミ類
	12月13日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	1月4日	カスミンボルドー	うどんこ病
	1月4日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	1月11日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	1月16日	ダコニール1000	うどんこ病,斑点病,黒枯病
	1月21日	ラリー水和剤	うどんこ病,斑点病
	1月21日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	1月28日	アフエットフロアブル	灰色かび病,うどんこ病
	1月28日	ボトキラー水和剤	うどんこ病
	2月2日	バンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病
	2月12日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
	2月20日	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類
	2月20日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
	2月21日	ラリー水和剤	うどんこ病,斑点病
	2月27日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
	2月27日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
	3月5日	コロマイト乳剤	コナジラミ類,ハダニ類
	3月5日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
GAPハウス(東)のみ	3月12日	スワルスキー	コナジラミ類
GAPハウス(西)のみ	3月14日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類
	3月22日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
	3月22日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
	4月4日	バンチョTF顆粒水和剤	うどんこ病
	4月4日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
	4月11日	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類
	4月11日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
	4月17日	アフエットフロアブル	灰色かび病,うどんこ病
	4月17日	ルビゲン水和剤	うどんこ病
	4月26日	マッチ乳剤	オオタバコガ
GAPハウス(西)のみ	4月26日	サンヨール	アブラムシ類,うどんこ病
	5月2日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
	5月2日	ボトピカ水和剤	うどんこ病
GAPハウス(西)のみ	5月16日	サンマイルフロアブル	コナジラミ類
	5月16日	ラリー水和剤	うどんこ病,斑点病
	5月22日	チェス顆粒水和剤	アブラムシ類
	5月31日	カリグリーン水溶剤	うどんこ病
GAPハウス(西)のみ	6月14日	モスピラン水溶剤	アブラムシ類
	6月14日	アフエットフロアブル	灰色かび病,うどんこ病
	6月28日	カスケード乳剤	オオタバコガ
	6月28日	ルビゲン水和剤	うどんこ病

2 住吉フィールド（牧場）

家畜部（蔭東・宇田津・邊見・鶴原（兼任））

月別家畜頭数

第1表 家畜月別飼養頭数（平成25年度）

畜種	性別	区分	H25										H26		
			4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
乳用牛	ホルスタイン種 （繁殖用）	雌	成	20	20	21	21	21	20	21	21	22	23	21	21
			育	10	10	10	11	10	9	8	9	9	9	10	10
肉用牛	ホルスタイン種 （肥育用）	去	成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
			育	1	1	0	2	1	2	0	1	2	2	1	1
F ₁ 種 （肥育用）	雌	成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		育	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0
黒毛和種 （繁殖用）	雌	成	66	58	58	58	55	51	52	53	52	52	52	50	
		育	16	13	16	17	18	18	17	15	15	17	19	20	
黒毛和種 （肥育用）	雌	成	0	7	11	11	10	15	14	16	15	12	10	10	
		育	27	30	24	25	26	22	21	18	18	18	21	22	
	去	成	9	6	7	8	6	6	7	8	7	6	5	4	
		育	35	37	39	39	41	43	43	42	43	42	42	44	
牛 計			185	183	187	194	189	187	184	184	184	183	182	183	
めん羊	日本コリデール雑種		0	0	0	0	0	0	0	5	0	0	0	0	

粗飼料給与状況

平成25年度の粗飼料給与状況を表2に示した。

第2表 粗飼料給与状況

区分	草種	前年度繰越 (kg)	生産量 (kg)	使用期間	使用量 (kg)	残量 (kg)
サイレージ	トウモロコシ	83,945	152,345	H25.4.1～6.15, 11.11～H26.3.31	183,850	52,440
ハイレージ	イタリアンライグラス	0	14,776	H25.4.1～H25.12.15	14,776	0
	エンバク	0	144,922	H25.4.5～H26.3.31	63,222	81,700
	ギニアグラス	0	21,698	H25.9.6～H26.3.31	13,361	8,337
	ローズグラス	0	2,028	H25.9.6～H26.3.9	2,028	0
	スーダングラス	399	18,520	H25.4.1～H26.3.31	15,831	3,088
乾草	イタリアンライグラス	771	13,856	H25.4.1～H25.12.15	14,627	0
	ライムギ	0	12,095	H25.4.16～H25.9.17	12,095	0
	エンバク	0	35,256	H25.4.11～H26.3.6	35,256	0
	ローズグラス	19,361	47,026	H25.4.1～H26.3.31	36,462	29,925
	ギニアグラス	20,320	14,146	H25.4.1～H26.3.31	33,401	1,065
放牧	バヒアグラス	0	420,000	H24.5.1～10.31	420,000	0
	センチピードグラス	0	40,000	H24.5.1～10.31	40,000	0
	ネピアグラス	0	108,000	H24.5.1～10.31	108,000	0

肉用牛の出荷状況

平成25年度の肉用牛の出荷状況を表3に示した。出荷頭数の総計は63頭であり、昨年度より10頭減少したが、これは濃厚飼料価格高騰の影響により、昨年度から計画的に飼養頭数を減少させたためである。枝肉出荷が42頭（うち黒毛老廃牛4頭、ホルス老廃牛2頭）、生体出荷が21頭であった。通常肥育の黒毛和種枝肉出荷頭数は36頭、上物率は61%、平均枝肉重量は444 kgであり、相場は低調であったが肥育成績が良かったことから枝肉単価は1,684円/kg、販売価格795千円となり、前年度と比較して一頭あたりで90千円程上昇した。平成25年度は出荷頭数の減少を枝肉単価の上昇により補う形となった。

第3表 肉用牛出荷成績（平成25年度）

区分	品種	性別	頭数	出荷時体重 (kg)	出荷時日齢 (日)	一日増体量 (kg/日)	販売価格 (円/頭)	生体単価 (円/kg)	枝肉単価 (円/kg)	
枝肉（肥育）	黒毛和種	去	16	754	901	0.81	900,447	1,226	1,795	
		雌	20	643	924	0.63	710,057	1,095	1,596	
	黒毛（老廃）	雌	4	483	4,481	-	179,478	367	615	
	ホル（老廃）	雌	2	-	3,199	-	89,487	-	315	
若牛		雌	2	-	2,708	-	323,820	-	-	
生体	仔牛	去	3	264	279	0.81	565,601	2,242	-	
		雌	2	287	313	0.81	544,265	1,989	-	
		F1	雄	3	57	31	0.58	102,236	1,804	-
	ぬれ仔	ジャージー	雄	1	50	59	0.46	2,603	63	-
		ホル	雄	9	66	38	0.59	39,721	624	-
		雌	1	66	57	0.64	3637	64	-	

繁殖成績

平成25年の繁殖成績（受胎頭数/実頭数）を表4に、月毎の授精頭数ならびに受胎頭数について表5に示した。黒毛和種の受胎率（50/58頭）は86.2%で前年度の80.7%に比べ5.5%上昇した。これは平成24年度にES細胞製造を目的とした採卵用の種付けがあったため、平成24年度の受胎率が低かったものと思われる。ホルスタイン種の受胎率（17/21頭）は81.0%で前年度と同じであった。なお、25年に受胎した黒毛和種50頭、ホルスタイン種17頭の受胎までの授精回数は両方とも1.5回であった。

月別の授精延べ頭数に対する受胎頭数を受胎率としてみると、黒毛和種では前年度とは異なり9月が最も高く100.0%、一方で前年度と同じく12月が最も低く0.0%であった。また、放牧期間中（5-10月）の受胎率は47.9%で放牧期間中以外（11-4月）は50.9%であり、ほぼ同じであった。ホルスタイン種では前年度とは異なり、2、4、6、8、9、11月が50%以上で高く、それ以外の月は5、10、12が約20~25%、1、3、7月が0%であった。

第4表 牛の繁殖成績

品種\項目	実頭数（頭）	延AI回数（回）	受胎までの 平均AI回数	受胎頭数（頭）	受胎率（%） ¹⁾	初産月齢（月齢）
黒毛和種	58	101	1.5	50	86.2	26.1（9頭平均）
ホルスタイン種	21	37	1.5	17	81.0	24.4（2頭平均）

1) 成牛で販売した牛については妊娠が不明であるので、受胎率の計算は 受胎率=受胎頭数/（実頭数-販売頭数）×100で計算している。

第5表 月別授精頭数及び受胎頭数

		H24												計
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
黒毛和種	授精延頭数 (頭)	10	9	9	9	8	3	11	11	2	13	12	4	101
	受胎頭数 (頭)	5	2	5	8	4	2	4	5	2	6	7	0	50
	受胎率 (%)	50.0	22.2	55.6	88.9	50.0	66.7	36.4	45.5	100.0	46.2	58.3	0.0	49.5
ホルスタイン種	授精延頭数 (頭)	1	5	1	3	5	1	2	2	5	5	3	4	37
	受胎頭数 (頭)	0	4	0	2	1	1	0	1	4	1	2	1	17
	受胎率 (%)	0.0	80.0	0.0	66.7	20.0	100.0	0.0	50.0	80.0	20.0	66.7	25.0	45.9

疾病状況

平成25年度の疾病発生状況を表6に示した。春から夏にかけて腸炎が多発した。気管支炎は比較的少なかった。平成25年度は繁殖障害の処置に積極的に取り組んだため発生数は増となった。乳房炎は平年より少なかった。その他の疾患として、蹄病、分娩牛や肥育牛の食欲不振などが発生した。

第6表 家畜疾病発生状況 (平成25年度)

病名/年月	H25										H26			計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月		
腸炎 (下痢等)	8	4	17	3	8	3	2	3	4	5	8	8	73	
気管支炎	4	1	0	1	4	2	0	0	1	1	0	0	14	
乳房炎	1	1	1	1	1	0	1	1	1	1	2	1	12	
繁殖障害	4	4	2	9	7	3	10	10	1	0	0	0	50	
その他	0	8	2	1	0	0	0	0	1	2	0	1	15	
斃死・死産	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	2	
合計 (頭数)	17	18	22	15	21	8	14	14	8	9	10	10	166	

飼料作物、牧草の作付け状況および生産量 (弓削・蔭東・本田・緒方)

平成25年度の飼料作物、牧草の作付け結果および生産量を表7に、またその際の種子、肥料等の使用量を表8に示した。ただし冬作のイタリアンライグラス、エンバクについては平成25年10月に播種し、平成26年5月までの生産の結果である。

作付け草種は例年とほぼ同様であったが、24年度に一部導入した夏作のパールミレットなどのミレット類、冬作のライムギについては、今年度は作付けしなかった。またバヒアグラス放牧草地へイタリアンライグラスを簡易更新機により一部導入し、冬季から春先の放牧草の確保に努めた。作付け面積は例年とほぼ同様であった。また冬作のイタリアンライグラス採草圃場のほぼ全てにエンバクを混播した。天候により、乾物収量は乾草で前年度の約69%、ラップサイレージで160%、トウモロコシサイレージで135%となったが全体の乾物収量は約39万 kgで、前年度の約98%とほぼ前年度並みであった。

例年通り、ギニアグラスの一部 (3.0 ha) は前年度までの自然下種を利用し、冬作との連年栽培を継続した。

第7表 飼料作物、牧草の作付けおよび生産実績

利用方法	草種名	作付面積 (ha)	現物収量 (kg)	乾物収量 (kg)	梱包数(個)	
					ロール	タイト
放牧	バヒアグラス	10.5	420,000	84,000		
	センチピードグラス	1.0	40,000	8,000		
	ネピアグラス	2.0	120,000	24,000		
	イタリアンライグラス(注1)	2.7	108,000	21,600		
	小計	16.2	688,000	137,600		
乾草	イタリアンライグラス(注1, 2)	10.8	35,510	30,184	144	
	ローズグラス	6.6	47,025	39,971	198	1,682
	ギニアグラス	4.5	14,146	12,024	64	—
	小計	21.9	96,681	82,179	406	1,682
ラップサイレージ	イタリアンライグラス(注1, 2)	3.3	25,900	15,540	70	
	エンバク(注1, 2)	—	98,485	39,394	207	
	ローズグラス	—	2,028	1,420	6	
	ギニアグラス	—	21,698	15,189	64	
	スーダングラス	2.9	18,520	12,964	47	
	小計	6.2	166,631	84,506	394	0
サイレージ	トウモロコシ	6.7	152,345	83,790		
	合計	51.0	1,103,657	388,075	800	1,682

(注1) イタリアンライグラス、エンバクは平成25年度の秋季作付け、26年度春季までの収量とする。
(注2) 採草地におけるエンバクはイタリアンライグラスと混播とし、1番草の収量をエンバク、2番草の収量をイタリアンライグラスとする。

第8表 飼料畑および草地における種子・肥料の使用量

草種	種子 (kg)	化成肥料 (14-12-110) 20kg/袋	苦土石灰 20kg/袋	尿素 20kg/袋	自家堆肥 (t)
トウモロコシ	145	141	201	40	141
ローズグラス	200	83	198	58	—
ギニアグラス	60	65	135	11	—
スーダングラス	275	48	111	10	—
採草地イタリアンライグラス	518	192	350	87	120
(エンバク混播)	650				
バヒアグラス	—	171	219	16	—
放牧地イタリアンライグラス	110	42	—	13	—
センチピードグラス	—	11	16	2	—
合計	1958	753	1,250	237	261

加工部（鶴原・野村）

住吉フィールドでは、当フィールドで生産した生乳を原料として、熱処理充填した牛乳（500 mlパック）を【大学MILK】として、大学職員や宮崎大学生協、及び近隣住民に対して販売しており、また余剰分の牛乳を県経済連に出荷している。平成25年度は昨年度と比較して、搾乳牛の頭数が増加したこと、牛乳の納入箇所が増加により、生乳出荷量、牛乳処理量共に増加した。

平成25年度の牛乳処理量および生乳出荷量を下表に示した。牛乳処理量は27,696 kgと前年度より1,220 kg増加した。生乳出荷量は48,021 kgと前年度より1,045kg増加した。その結果、販売合計では75,717 kgと前年度より2,265 kg増加した。

平成25年度の月別牛乳販売個数を下表に示した。牛乳販売個数は47,579 個で、前年度より1,290 個増加した。

県経済連に出荷した生乳の成分検査結果並びに単価を下表に示した。

第9表 牛乳処理量および牛乳出荷量

年月	牛乳処理量 (kg)	生乳出荷量 (kg)	合計 (kg)
H25. 4	2,198	4,973	7,171
5	2,563	4,339	6,902
6	2,178	4,360	6,538
7	2,434	3,315	5,749
8	2,104	3,571	5,675
9	1,939	4,574	6,513
10	2,576	3,013	5,589
11	2,407	2,960	5,367
12	2,629	3,205	5,834
H26. 1	2,186	5,022	7,208
2	2,082	3,722	5,804
3	2,400	4,967	7,367
合計	27,696	48,021	75,717

第10表 月別牛乳販売個数

年月	販売個数 (個)
H25. 4	3,423
5	4,945
6	3,867
7	4,279
8	3,650
9	2,808
10	4,400
11	4,558
12	4,553
H26. 1	3,777
2	3,637
3	3,682
合計	47,579

第11表 出荷生乳検査結果

年月	乳脂率 (%)	タンパク質 (%)	SNF (%)	MUN (mg/dl)	体細胞数 (万/ml)	細菌数 (万/ml)	単価 (円/kg)	
4月	上期	3.69	3.07	8.51	13.2	4	3	91.90
	下期	3.88	3.16	8.56	11.5	5	3	92.72
5月	上期	3.56	3.25	8.64	9.9	5	3	94.94
	下期	3.98	3.23	8.68	9.0	4	3	96.16
6月	上期	4.09	3.26	8.68	11.8	8	3	106.18
	下期	4.09	3.11	8.56	14.4	4	3	105.48
7月	上期	3.89	3.04	8.40	13.8	13	3	113.47
	下期	4.03	3.03	8.39	13.1	10	3	114.45
8月	上期	3.86	3.04	8.41	8.2	14	3	114.04
	下期	3.74	3.01	8.25	10.0	27	3	111.08
9月	上期	3.95	3.09	8.40	11.3	25	3	119.47
	下期	3.95	3.18	8.43	12.0	24	3	119.56
10月	上期	3.95	3.16	8.43	17.5	15	3	112.30
	下期	4.12	3.15	8.45	12.9	11	3	113.36
11月	上期	3.93	3.25	8.48	8.9	15	3	106.08
	下期	4.01	3.33	8.63	9.1	13	3	107.31
12月	上期	3.98	3.32	8.73	4.8	10	3	95.18
	下期	4.07	3.34	8.77	6.6	8	3	95.60
1月	上期	4.08	3.29	8.69	6.7	10	3	95.68
	下期	3.82	3.18	8.66	6.2	11	3	94.45
2月	上期	3.89	3.13	8.63	6.0	9	3	95.58
	下期	4.29	3.13	8.59	7.7	23	3	95.45
3月	上期	4.23	3.17	8.58	6.9	12	3	92.99
	下期	3.83	3.26	8.74	6.6	5	3	92.29

3 田野フィールド（演習林）

第1表 保育実績

項目	数量	場所
田野地区		6に16、8う1、13ろ12-15、15と6-9、
下刈り	6.89 ha	ち2-4
除伐	4.25 ha	13ろ2、3、へ6-8
枝打ち	4.06 ha	8み、お、く、13ろ4、ろ6、15ろ3
地拵え・植栽	0.7 ha	7へ2
大納地区		
下刈り	0.12 ha	1へ
地拵え・植栽	0.19 ha	1へ

第2表 林産物売払

生産数量:m ³ , 金額:単価:円								
No.	地区名	産物区分	契約年月	生産数量	収入金額	売払先	立米単価	場所
1	田野地区	広葉樹パルプ材	H25.4	32.900	250,451	宮崎県森林組合連合会	7,612	7林班に小班
2	田野地区	用材	H25.4	5.267	64,953	宮崎県森林組合連合会	12,332	7林班に小班
3	田野地区	スギ材	H25.5	199.489	711,132	宮崎県森林組合連合会	3,565	10林班ろ小班・18林班へ小班
4	田野地区	ヒノキ材	H25.5	17.341	88,478	宮崎県森林組合連合会	5,102	7林班に小班
5	田野地区	スギ材	H25.9	50.520	237,895	宮崎県森林組合連合会	4,709	7林班へ2小班
6	田野地区	用材	H25.9	3.038	54,189	宮崎県森林組合連合会	17,837	7林班へ2小班
7	田野地区	スギ材	H25.9	121.829	639,846	宮崎県森林組合連合会	5,252	7林班へ2小班
8	田野地区	広葉樹パルプ材	H25.10	43.500	353,981	宮崎県森林組合連合会	8,137	7林班へ2小班
9	田野地区	広葉樹パルプ材	H25.11	15.300	124,504	宮崎県森林組合連合会	8,138	7林班へ2小班
10	田野地区	広葉樹パルプ材	H25.12	73.600	598,920	宮崎県森林組合連合会	8,138	7林班へ2小班
11	田野地区	スギ材	H25.12	88.016	937,282	宮崎県森林組合連合会	10,649	13林班ち小班
12	田野地区	スギ材	H26.1	47.513	396,900	宮崎県森林組合連合会	8,354	18林班へ小班
13	田野地区	スギ材	H26.2	74.664	386,381	宮崎県森林組合連合会	5,175	1林班へ小班
14	田野地区	椎茸等	年間		208,130	学内販売		
15	田野地区	木工品他	11月、12月		207,750	フィールド開放（木花、住吉）		
合 計				772.977	5,260,792			